

自動車部品サプライヤー 撤退・清算の地雷集

平時には見えにくいが、撤退時に一気に顕在化する
自動車業界特有のリスクを整理



自動車部品サプライヤーの撤退・清算では、一般的な工場閉鎖とは異なる論点が数多く発生します。

EOP通知、補給部品の納入責任、金型・治具、残在庫、輸入部品、海関、顧客承認、除却損・廃棄損。

これらは平時には見えにくいものの、撤退・清算の局面では一気に表面化します。



撤退・清算は「片付け」ではありません。

顧客・現場・帳簿・証跡を整理し、説明できる状態にする実務です。



はじめに

なぜ自動車業界には、撤退・清算時に特有の地雷が生まれるのか



自動車部品サプライヤーの撤退・清算は、単に工場を閉じるだけでは終わりません。

完成車メーカーとの取引関係、車種別・品番別の供給責任、金型・治具・検具の扱い、残在庫の処分、輸入部品の海関処理、そして税務清算資料への接続まで、複数の論点が連動します。平時には「何とか回っている」状態でも、撤退・清算に入ると、曖昧なまま残っていた問題が一気に表面化します。

1

顧客対応の地雷



- EOP通知
- 補給部品の納入責任
- 顧客承認・最終精算

2

現場処理の地雷



- 金型・治具・検具
- 残在庫・輸入部品
- 現物確認・海関

3

会計・税務の地雷



- 未償却資産
- 除却損・廃棄損
- 税務清算資料



**自動車部品サプライヤーの撤退は、
『工場を閉じる話』ではなく、
『部品・金型・在庫・証跡を終わらせる話』です。**

地雷マップ

地雷は単独ではなく、連鎖する



撤退・清算時の地雷は、1つだけで完結するものではありません。
EOP通知がないことが、補給部品の納入責任を曖昧にし、
金型・在庫を処分しにくくし、最終的には除却損・廃棄損の
説明を難しくします。

EOP通知
が出ない



終わった
証拠がない



補給部品の
納入責任が
曖昧



金型・治具・
在庫を
処分しにくい



顧客承認・
海関・会計
整理が必要



税務清算で
説明が
重くなる



顧客対応



- EOP通知
- 補給部品
- 顧客承認
- 最終通知

現場処理



- 金型
- 治具
- 検具
- 在庫
- 材料
- 仕掛品
- 輸入部品

会計・税務



- 未償却残高
- 除却損
- 廃棄損
- 帳簿整合
- 証跡資料



平時の曖昧さは、撤退時には損失と説明責任に変わる。

地雷① EOP通知が出ない

正式なEOP通知がないまま、実質的に量産が終わっている状態は、撤退時に最も詰まりやすい地雷の一つです。



完成車メーカーから正式なEOP通知が出ないまま、発注が減少し、内示が消え、実質的に量産が終わっているケースがあります。平時であれば、その曖昧さを抱えたまま運営できることもあります。しかし撤退・清算に入ると、『終わった証拠がない』ことが大きな問題になります。

1 なぜ地雷か



- 正式な終了証拠が残りにくい
- 補償請求の起点が曖昧になる
- 在庫や金型を処分する根拠が弱くなる
- 本社・顧客・現場の認識がずれやすい

2 撤退時に起きること



- 未償却の金型・治具費を請求しにくい
- 在庫・材料・仕掛品を廃棄しにくい
- 補給部品の納入責任が残る可能性がある
- 除却損・廃棄損の説明が弱くなる

3 確認したいこと



- 最終発注日
- 最終納入日
- 直近の内示状況
- 発注停止の履歴
- 顧客への確認メール
- 督促履歴
- EOP相当日の判断記録

EOP通知がない



終わった証拠がない



請求・処分・説明で詰まりやすい



EOP通知がないとは、『終わった証拠』がないということ。

請求できない・捨てられない・説明できない

地雷②

補給部品の納入責任の終点が曖昧

量産終了と、補給部品の納入責任終了は同じではありません。
会社を閉じたい時ほど、この曖昧さが重くなります。



量産が終了しても、修理・交換・保守用の補給部品について、一定期間の納入対応が求められる場合があります。
補給部品の対象品番、供給期間、最低ロット、価格条件、代替生産先が曖昧なままだと、撤退・清算時に責任だけが残ります。

なぜ地雷か



- 補給部品の供給期間が曖昧
- 対象品番が整理されていない
- 最低ロットや価格条件が未整理
- 代替供給先が決まっていない
- 金型・在庫を残す必要がある

撤退時に起きること



- 会社を閉じたいのに納入責任が残る
- 金型・治具を廃棄できない
- 在庫を処分しにくい
- 顧客との交渉が長引く
- 清算スケジュールが読みにくなる

確認したいこと



- 補給部品の対象品番
- 供給年限
- 顧客との合意内容
- 最低ロット
- 補給価格
- 金型保管の要否
- 代替供給先の有無



量産終了



補給部品の
納入責任は継続



終了時期が曖昧

量産終了＝納入責任終了ではない。



**補給部品の納入責任が残ると、
在庫と金型が清算を止める。**

地雷 ③

未償却の金型・治具・検具が残る

通常運営時には眠っている金型・治具・検具も、撤退時には処分・保管・返却・補償の論点になります。



自動車部品サプライヤーでは、車種や品番に紐づく金型・治具・検具が多く存在します。

これらの所有権、保管責任、未償却残高、顧客との契約条件が曖昧なままだと、撤退時に動かせない資産になります。

なぜ地雷か



- 所有権が曖昧
- 未償却残高が残る
- 顧客専用資産として処分しにくい
- 保管責任が整理されていない
- 廃棄・返却・移管の判断が止まる

撤退時に起きること



- 補償請求が難しい
- 顧客承認なしに廃棄できない
- 保管費や返却費の負担が不明
- 会計上の除却処理が重くなる
- 現物確認に時間がかかる

確認したいこと



- 金型・治具・検具の台帳
- 所在地
- 現物写真
- 所有権
- 契約条件
- 未償却残高
- 顧客承認の要否
- 保管・返却・廃棄の処理方針



.....



.....



眠っている金型は、撤退時には資産ではなく論点になる。



動かせない資産は、清算を重くする。

地雷④

残在庫に輸入部品・海関問題が絡む

現地調達品と輸入部品が混在すると、
在庫処理は単なる廃棄・返却では終わりません。



残在庫には、現地調達品だけでなく、日本や海外から輸入した部品が含まれている場合があります。

輸入部品は、単なる倉庫在庫ではありません。

輸入形態、保税・加工貿易、減免税、海関台帳など、海関上の履歴を持つ在庫です。

なぜ地雷か



- 現地調達品と輸入部品が混在する
- 輸入部品には海関上の履歴が残る
- 保税・加工貿易・減免税が絡む可能性がある
- 現物、帳簿、海関データの整合が必要になる
- 勝手に廃棄できない可能性がある

撤退時に起きること



- 廃棄、返送、転売の判断が複雑になる
- 海関手続きが未了だと清算に影響する
- 在庫処理が現場判断だけでは進まない
- 税務清算資料にも影響する
- 本社・顧客・海関・会計士への説明が必要になる

確認したいこと



- 現地調達品／輸入部品の区分
- 輸入形態
- 保税・加工貿易・減免税の有無
- 海関台帳
- 在庫台帳
- 現物との整合
- 廃棄、返送、転売、保管の処理方針
- 廃棄証明・海関関連書類



.....



.....



輸入部品は、捨てれば終わりではない。
どう入って、どう使われ、どう処分されたかを説明する必要がある。



残在庫は、現場・海関・会計の三方向で地雷になる。

地雷⑤

顧客承認なしに処分できない

在庫・金型・治具の処分は、現場判断だけでは終わりません。
顧客承認の有無が、後日の争点になります。



撤退・清算では、在庫、材料、仕掛品、金型、治具、検具を処分する必要があります。しかし、顧客専用部品、支給材、指定材、顧客所有の金型などは、顧客承認なしに処分すると、後で問題化する可能性があります。

なぜ地雷か



- 顧客所有物が含まれる可能性がある
- 顧客専用部品は勝手に処分しにくい
- 支給材・指定材の扱いが曖昧になりやすい
- 顧客が後から「聞いていない」と言う可能性がある
- 処分後に証拠を作ることは難しい

撤退時に起きること



- 廃棄判断が止まる
- 返却、保管、廃棄の方針が決まらない
- 顧客との認識差が拡大する
- 後日クレームの火種になる
- 税務清算で処分根拠の説明が弱くなる

確認したいこと



- 顧客承認メール
- 議事録
- 最終通知
- 回答期限
- 処分前写真
- 処分後写真
- 廃棄証明
- 支給材・指定材の区分



.....



.....



処分実務は、現場の片付けではなく、
顧客確認と証拠整備を伴う清算準備です。



**顧客承認なしの処分は、
後日のクレームと税務説明不足につながる。**

地雷 ⑥

現物・帳簿・海関台帳が合わない

平時には埋もれていたズレが、
撤退・清算時には一気に表面化します。



清算時には、現場にある現物、会計帳簿上の資産・在庫、
そして海関上の記録が一致しているかを確認する必要があります。
現物はあるのに帳簿にない。帳簿にはあるのに現物がない。
海関台帳には残っているが、現場では確認できない。
このようなズレは、清算時に重い説明負担になります。

なぜ地雷か



- 長年の運営で現物と帳簿がずれやすい
- 在庫の一部が処分済みでも証拠が残っていない
- 金型や治具の所在が不明になりやすい
- 輸入部品は海関記録との整合も必要
- 誰が判断したかの記録が残っていない

撤退時に起きること



- 除却判断が止まる
- 在庫説明が難しい
- 会計士の整理作業が重くなる
- 税務局への説明が弱くなる
- 海関上の処理確認が必要になる
- 清算スケジュールが遅れる

確認したいこと



- 現物棚卸
- 固定資産台帳
- 在庫台帳
- 金型・治具台帳
- 海関台帳
- 輸入記録
- 廃棄済み資産の証跡
- 帳簿と現物の差異一覧



.....



.....



ズレは平時には見えにくい。
しかし清算では、すべて説明対象になる。



**現物・帳簿・海関台帳のズレは、
清算時に一気に表面化する。**

地雷 ⑦

除却損・廃棄損を説明できない

問題は処分そのものではなく、
処分を説明できないことです。



撤退・清算では、在庫、材料、仕掛品、金型、治具、設備などを処分する場面が出ます。
処分した結果、除却損や廃棄損が発生することがあります。
しかし、その損失を税務清算で説明するためには、
処分の合理性と証跡が必要です。

なぜ地雷か



- 廃棄の理由を説明できない
- 顧客承認がない
- 処分前後の写真がない
- 廃棄業者の証明がない
- 社内承認がない
- 帳簿との整合が取れていない

撤退時に起きること



- 除却損の根拠が弱い
- 廃棄損の損金説明が難しい
- 会計士・税務局対応が重くなる
- 過去の処分を後から証明できない
- 清算資料作成に時間がかかる

確認したいこと



- 廃棄理由
- 社内承認
- 顧客確認履歴
- 処分前写真
- 処分後写真
- 廃棄証明
- 計量票
- 發票
- 契約書
- 台帳・帳簿との整合



.....



.....



処分後に証拠を集めるのでは遅い。

処分前から、清算で説明できる形を作る必要がある。



**捨てることより、
捨てた理由を説明できることが重要。**

撤退前に確認すべきこと

地雷は、撤退を決めてから見つけると重い。
平時のうちに、確認すべき論点を見える化しておくことが重要です。

- | | | |
|---|---------------------------|-------------------------------------|
| ① | 最終発注日・最終納入日を確認しているか | ☒ |
| ② | 補給部品の納入責任の有無と期間を把握しているか | ☒ |
| ③ | 金型・治具・検具の台帳と所在を確認しているか | ☒ |
| ④ | 在庫・材料・仕掛品を顧客別・品番別に整理しているか | ☒ |
| ⑤ | 輸入部品・海関上の論点を整理しているか | ☒ |
| ⑥ | 顧客確認履歴・承認記録を残しているか | ☒ |
| ⑦ | 現物・帳簿・海関台帳の差異を把握しているか | ☒ |
| ⑧ | 廃棄証明・写真・会計資料へ接続できるか | ☒ |

基本フロー



事実確認



証拠整備



処理方針整理



税務清算へ接続

撤退前に確認すべきことは、撤退後に説明を求められることです。



**撤退前に確認すべきことは、
撤退後に説明を求められることです。**

役割分担と連携のポイント

撤退・清算は一社だけで完結しません。

現場実務、法務、会計をつなぎ、説明できる状態を作ることが重要です。

現場実務



- 現物確認、写真記録、台帳化、搬出、保管、廃棄、業者手配を行います。
- 在庫・金型・治具・設備を、清算資料に使える形で整理します。

弁護士



- 契約、所有権、顧客通知、承認取得、処分前の法的整理を担当します。
- 顧客との認識差や後日の紛争を防ぐための書面整理が重要です。

会計士



- 除却損、廃棄損、在庫評価、帳簿整合、税務清算資料への接続を担当します。
- 処分実務を、税務清算で説明できる形に整理します。

全体接続



- 現場実務、法務、会計の論点をつなぎ、清算時に説明できる状態を作ります。
- 現場で起きていることを、専門家が扱える資料へ接続することが重要です。

撤退・清算で困る前に、平時の曖昧さを見える化することが重要です。

EOP通知、補給部品、金型、在庫、輸入部品、海関、顧客承認、税務清算。

これらを事前に整理しておくことで、撤退時の損失と混乱を抑えることができます。

必要に応じて、現場実務会社・提携弁護士・会計士と連携し、清算時に説明できる状態づくりを進めます。



**撤退・清算は、最後に慌てるものではなく、
平時から地雷を見える化しておくものです。**